


# 水と森林と人を育む みなかみプロジェクト2030

群馬県みなかみ町（2019年度選定）

<b>1. 地域の特徴と課題及び目標</b>	群馬県の最北端に位置し、町の面積の9割以上を山林が占め、谷川岳や利根川流域といった日本を代表する豊かな自然環境を有する。これらの自然をまもり、観光や農業などに活かしひろめながら人々の暮らしが営まれているが、1955年をピークに人口減少が顕著である。自然と人が共生する社会の世界的モデルであるユネスコエコパークの町として、SDGs達成に向けたチャレンジを通じて課題解決を図る。	<b>2. 関連するゴール</b>	
<b>3. 取組の概要</b> (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)	三側面の課題を総合的に解決することが期待できる「自伐型林業」の推進強化を図り、森林資源を活用した稼ぐ力の強化による循環経済の確立、地域に根ざした特色有る教育の推進と関係人口の増加による社会面の好転換、森林・里山整備と木質バイオマス利用推進による環境面の強化を展開する。		
<b>4. 自治体SDGs推進等に向けた取組</b>  「木材の伐倒から利用まで一貫した林業の六次産業化」  ●山林所有者や地域住民が主体的に継続して関わることができる「自伐型林業」を推進し、多様な人材を巻き込んだ担い手の育成を推進する。  ●林業分野ではあまり重視されてこなかった町内の広葉樹の活用。  ●国産材にこだわった高級家具メーカーや町内木工職人、製材所、福祉作業所などと連携して、川上から川下までの一貫した流れを構築	<b>6. 取組成果</b>  ➢ 「自伐型林業」による担い手の育成と就労機会の創出 「自伐型林業実践団体数と人数」 2019年度末 8団体 74人 2020年度末 9団体 83人 2021年度末 10団体 96人 2022年度末 11団体 99人 2023年度末 14団体 128人  ➢ 広葉樹を中心とした商品化と木材のブランド化 →製品の開発・販売、ステークホルダー向け研修の実施  ➢ 木材ステーション（仮称）へ木材集積開始  ➢ 森林マッチング制度（仮称）設計に向け、森林所有者意向調査実施		
<b>5. 取組推進の工夫</b>  従前から行われている自伐型林業団体の意見交換会を連絡協議会に格上げし、町や団体のさらなる連携や情報交換が図られ活動の全体的な底上げが進んだ。加えて、団体の活動の初動支援をきめ細かに行うなどして参入者の増大を図った。	<b>7. 今後の展開策</b>  本町の最大の財産である美しい自然と里地里山を核として、観光・商工業・農林業・教育・健康・福祉・エネルギーなど様々な分野をそれぞれ横断的かつ有機的に連携し地域を経営するという観点で相乗効果を創出し、人と自然が共生した持続可能なまちづくりを推進していく。		
<b>8. 他地域への展開状況</b> （普及効果）	自治体等の視察受け入れの際はSDGs未来都市計画について説明をしている。また、新聞をはじめとするメディアや、web会議等において、みなかみ町のSDGsについて積極的に発信している。 また、当町の取組に共鳴頂いた複数の企業と連携しさまざまなプロジェクトを推進し、広く当町のSDGsの取組について情報発信している。		